

本日、国土交通省から一般国道42号（近畿自動車道紀勢線）紀宝熊野道路延長15.6kmについて、新規事業化が発表されました。

御浜町内の国道42号は南海トラフ巨大地震の津波時に全区間浸水する想定となっており、災害拠点病院として再整備した紀南病院が有効に機能しないだけでなく、紀宝熊野道路が無ければ他地域からの救援すら受ける事が困難です。近畿自動車道紀勢線は人命だけでなく、町の命運すらも左右する「命の道」と考えております。

このため、御浜町としても関係国会議員、三重県、地元との方々、熊野尾鷲道路建設促進期成同盟会および近畿自動車道紀勢線（熊野市～新宮市間）建設促進期成同盟会などをとおして、新規事業化を目指し懸命に活動を行ってまいりました。その結果として、今回初めて御浜町内の高速道路が事業化されたことを大変喜んでおります。ただし、ここがゴールではありません。

これまでの近畿自動車道紀勢線整備により、みかんの輸出も含めた1次産業の伸びだけでなく、外資系ホテルの誘致など紀宝熊野道路がインバウンド観光集客の一翼を担うことを確信しております。

当町は、新規事業化および早期完成を強く要望するだけでなく、三重県や町民の皆さんの協力を戴きルート帯の地籍調査を先行して進めてきました。今後も国や三重県、そして地域の皆さんと積極的に連携し、円滑な事業の進捗を図ることができるよう努めてまいります。

平成31年3月29日

御浜町長 大畑 覚